

九月定例市議会は九月十八日から三十日までの十三日間の日程で開かれ、六十一年度一般会計補正予算十一億三千九百六十七万円(累計百五十三億七千三百七十七万円)など十四議案を可決、六十年産南国市水道事業会計決算の認定を継続審査としました。

市政報告(要旨)

小笠原市長は、提案理由の説明に先立ち、七月から九月の市政の動きについて次のように報告しました。

財政

一般会計補正予算を中心とし、現状及び今後の問題についてご報告します。今回の補正予算の財源となる一般会計は、前年度繰越金九千七十三万円を主要財源とし、これに地方交付税、市税、財産収入を加えた二億一千三百万円です。市税中、個人、法人の各市民税はなお今後の不確定要素が多いことと、追加の需要に備えて財源として留保しました。今後は特別交付税とともに財源確保に努力し、今回未計上となった開発公社への支払い、し尿処理対策などの財源としたいと考えています。

空港周辺対策

九月定例市議会の一般質問は、二十二、二十四、二十五日の三日間行われ、山崎、高島、森尾、岡林、今井、井口、山岡、竹内、小沢、徳永各議員が市長の政治姿勢や行政改革、同和行政などの問題について執行部の考えをたずねました。執行部の主な答弁は次のとおりです。

一般質問

【市の行政改革の内容は行政改革大綱によって決めた。低成長で財源が限られており、行政事務の効率化は至上命令である。民間への委託も考えていく。福祉行政は国の負担、人員、財政を考えると限度がある。一律カットは考えていないが、内容をよく考え、実効のある行政をしなければならぬ。】
【高速道路のインターチェンジに対応する救急業務は全国的に各自治体でこれに協力している。最小限度の人員で対処し、実施する。建て前は高速道路への救急出動であるが、その頻度は少ないと思われる。救急出動よりも北部の人口増による消防対策という点に関係していくのではないかと。】
【小集落地区改良事業は他の一般建設事業とは異なり、地域の住環境の整備、改善を目的としている。来年三月末で現在の地域改善対策特別措置法の期限は切れるが、現在認可を受けている事業については引き続き国庫補助が付くものと考えている。】

この事業の事業費の三分の二は国庫補助金、残る三分の一は起債

9月定例市議会

11億3,967万円を補正、総額153億7,317万円

高知空港の1種区域拡大 対象民家は173戸

六月二十七日、運輸省告示によって第一種区域の拡大が確定しました。これによって民家の防音対策事業を本年度に実施することになり、その対象戸数百七十三戸、概算金額約五億三千万円を今回補正予算に計上することとしました。

同和対策

地域改善対策事業の繰越し事業は、年度末にはほぼ完全消化できる段階になっています。本年度事業については、野中地区で約七六戸、前浜地区で約九一戸が実施されていますが、法の期限があとわずかになっている現在、残事業量から推定すれば法の延長なくしては当初予定された本事業の完成はあり得ない状況です。今後、同和財政的措置が現行どおり継続されることを強く希望します。

し尿処理

早期に処理場を建設することは場所の選定、財政状況などからみて極めて困難な情勢です。したがって、新処理施設が建設できるま

比江工業団地

株式会社ミロク機械の本社工場が、今月五日に完成しました。事務所の移転も完了し、工場の一部は試験操業の段階に入りました。これに伴う造成工事もほとんど完了し、残る登記事務を十一月の全面操業までに完了すべく諸般の事

で、現在の黒滝処理場を改善して引き続き使用しなければならぬと考えられます。なお、黒滝処理場の施設改善については、廃棄物処理委員会に検討をお願いしています。

行政改革

「南国市行政改革大綱」については、南国市行政改革懇談会で検討していただき、今年六月三十日に完了しました。今後はこの大綱に基づき各事項を実施することになります。現在、検討または実施している主な事項は機構改革及び事務事業のOA化(電算化)など機械化の推進です。

水田利用再編対策

この事業は昭和五十九年度から六十一年度までの間を第三期対策の実施期間として実施されてきました。本年度については、国の目標面積が更に増加され、昨年度より八十戸増加となり、転作目標面積として千七百七十二戸の配分を受けました。本市は年々、大型公共事業の実施で農地の転用化が進んでいるなどの要因があるため、その完全実施には危機感を持って対応しています。現在のところ実施計画面積は千八百二十一戸です。

高速自動車道と救急業務

務を進めています。

昭和六十一年十一月には四国横断自動車道、南国インターチェンジが供用されることになっており、これに対応する救急業務を昭和六十二年産中に実施すべく準備中です。新設救急隊はインターチェンジから三キロ以内を設置することを要求されていますので、現在その場所を選定中で、救急隊員は十人くらいを予定しています。担当区間は領石から大豊までの上り路線です。

組合の設立に取り組みなど、事務的な面でお手伝いするが、具体的な仕事は地元でお願いしたい。サニーマートの増床計画については商工会に話をしてある。百貨店ができて周辺が寂れたという話は聞かないし、消費者の立場からはできた方がよいのではないかと。今後の推移を見守りたい。

【し尿処理場の問題は、市職員の研究による対策と複合ラウン方式の研究によって若干時間的な余裕ができたが、黒滝は現状では二年以内に処理が不可能になる。近代的な処理場の建設にはかなりの時間がかかるので、改修を検討する。現在でも厚生省の水質基準はクリアしているが、前処理を十分行い、色抜きを行うことにより一層基準を下回ることになる。】
【土佐くろしお鉄道への中村線の加入はこれから先の問題だ。阿佐線、宿毛線同時着工が済み、宿毛線が先に着工することになったが、これは宿毛湾港やコミュニティーサービスとの関係、一県一線という国の方針によるものだ。来年阿佐線を着工するという確約を取ってもらおうと要望している。

【国保税の徴収率確保は不可欠だ。二期以上未納の者については保険証の交付を保留し、出頭を求め理由と今後の納税計画を聞いて確約書をもらい、交付している。払

えない者については一応資格証明を発行し、納税をお願いしている。今後国民健康保険法に悪質未納者には交付しないことが明文化されることになっているので、それによって運営されると思う。減免については天災の場合を除いてむやみに行っていない。

【生涯教育の推進は、地域社会と学習をどう結び付けていくかや条件の整備などの問題があるが、指

可決された主な議案

【昭和六十一年度南国市一般会計補正予算十一億三千九百六十七万七千円】
歳出の主なものは、集落整備事業費四千五百三十七万七千円、生活環境施設整備事業費二千五百二十万、民家防音対策事業費五億三千二百七十九万九千円、転作安定対策特別事業費、県単土地改良事業費等七千七百七十五万五千円、湖見台開発に伴う大戸川雨水貯留施設事業費一億二千九百万円、高速道路関連工事費三千七百一十一万、県営事業負担金三千四百四十三万、都市計画街路事業(南国山田線、篠原八幡線)負担金三千六百五十八万八千円、十市パークタウン区画整理事業負担金八千三百二十五万、下水道事業特別会計への繰入金四千三百八万八千円、北陵中学校のプレハ

ブ教室設置、改造費八百八十万円、公共土木施設復旧費千四百四十二万四千円など。
【昭和六十一年度南国市下水道事業特別会計補正予算】
一億八千七百九十八万八千円を増額補正し、総額三億七千四百四十八万三千円となりました。
【昭和六十一年度南国市国民健康保健特別会計補正予算】
千四百六十三万円を増額補正し、総額二十九億三千九百四十四万四千円となりました。
【大篠保育所新築工事請負契約の締結について】
施設の老朽化等の解消を目的とするもので、鉄筋コンクリート造り一部二階建、延床面積千二百二十八平方メートル、昭和六十二年三月十日完成予定です。